

第6回伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本構想策定委員会 議事概要

【日時】平成30年3月13日（木）19：00～20：15

【場所】三重県伊勢庁舎 402会議室

【出席者】（敬称略）

＜委員＞（◎は委員長、○は副委員長）

- ◎深草 正博 皇學館大学 教育学部 特命教授
- 加藤 忠哉 三重大学 名誉教授
- 荒井 喜久雄 公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
- 和氣 城太郎 三重県環境生活部 廃棄物対策局 RDF・広域処理推進監
- 大西 要一 伊勢市環境生活部長
- 古布 武 伊勢市環境生活部環境課長
- 出口 昌司 伊勢市環境生活部清掃課長
- 世古口 和也 明和町人権生活環境課長
- 西野 公啓 玉城町生活福祉課長
- 岡田 美和 度会町福祉・環境課長
- 中井 宏明 伊勢広域環境組合 事務局長

＜事務局＞

伊勢広域環境組合

＜コンサルタント＞

株式会社エックス都市研究所

【配布資料】

- 資料1 メーカーアンケート結果報告
- 資料2 可燃ごみ中間処理方式について
- 資料3 事業範囲について
- 資料4-1 建設候補地選定における3次選定の評価結果
- 資料4-2 3次選定における各指標の算出方法
- 資料5 平成29年度検討事項の概要
- 参考資料 第4回伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本構想策定委員会 議事概要
- 参考資料 第5回伊勢広域環境組合ごみ処理施設基本構想策定委員会 議事概要

1 開会

- 傍聴席を一般12席、報道4席を事務局で用意し、一般8名の傍聴となった。

2 前回議事概要の確認

- 事務局より参考資料に基づき説明し、委員からの意見は特になし。

3 議事

(1) メーカーへのアンケート結果

- 事務局より資料1に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 仕様で発電機能を有することとしているが、ここでは売電収入は見込んでいないとの理解でよいか。

(事務局) 売電収入は見込んでの運営維持管理費となっている。

(委員) 本来掛かる運営維持管理費から売電収入を差し引いた費用が記載されているのか。

(事務局) ご理解のとおり。非公開資料の中で収入となっている箇所が売電収入となる。

(委員) 概算事業費については、現時点での試算であって、これを保証するものではないとの理解でよいか。

(事務局) ご理解のとおり。現時点では一つの目安である。

(委員長) メーカー間で運営維持管理費の大きな開きとなっているのはなぜか。

(事務局) FIT制度による売電単価の違いと人件費の違いが大きい。

(2) 中間処理方式

- 事務局より資料2に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員長) 先ほどの質問の運営維持管理費の違いはここで説明のあるものですね。

(事務局) そのとおり。

(委員) 運営維持管理費に開きがあるのは、FITの1kWh当たりの調達価格の違いがある。メタンによる売電単価は39円、廃棄物由来は17円となっている。メタン化を行う場合、厨芥類の収集体系の検討まで必要となる。それは各市町の負担となり、その面のコスト評価についても留意しておく必要がある。FITの考え方だが、近年は単価が下がってきている。長い目で見ると単価は下がる傾向にあり、売電単価は変動するリスクがあることは留意が必要である。運営維持管理費は大きく変化しないと思うが、売電単価は常に変動のリスクがあるので、内部では売電単価を別で整理した試算も必要と感じた。

(委員) 50～60 t /日というメタン化施設を併設した場合とは仮定によるものか集まる生ごみ量を予想したものか。

(事務局) 現時点で予想したものではなく、既に導入している他自治体の事例を参考としている。一つの設備規模が25～30 t/日となり、50～60 t/日となると2系統となる。

(委員) 小規模施設とはどの程度を想定しているのか。

(事務局) 100 t/日以下の施設規模を想定しており、その規模では高効率発電が難しいとされている。その中で、交付金を得るために、メタン化施設を併設して発電効率を高めている。

(委員) 処理フローの箇所に記載あるように、市町村の負担を増やさないために機械選別するとの理解でよいか。

(委員) それは今後、検討することだが、基本的には機械選別するとの考えだと思う。

(事務局) 前回の委員会で示したが、今回のアンケートでは現在の収集方法は変更せずに、という前提でアンケートを行ったので、機械選別となっている。

(委員) 現在、国が中小規模施設のエネルギー回収の方針の検討会を行っている。そこでは、100～70 t/日までなら高効率発電が可能だが、70～50 t/日くらいまではタービンの形式を変更すれば可能、それ以下は、熱回収はできないとなると、メタンガスがいいのではないかとされている。今後、国から方針が出ることになる。

また、廃棄物処理施設整備計画を5年ごとに閣議決定しており、来年度に次の5年間の廃棄物処理施設整備の方向性が5月頃に出されるはずなので、その中でメタン化の方向を確認してからでもよいのではないかと。

(3) 事業範囲

- 事務局より資料3に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 昭和50年に建設したということだが、耐震問題は大丈夫か。

(事務局) 耐震診断を実施した結果、大丈夫と判断している。平成27年度の精密機能検査では老朽化が多いという見解だった。補修工事等をしながらあと8年間は持たせる。

(委員) 安全を考えたら更新した方がよい。現施設の位置とするか別の土地を探すかが問題となる。

(委員長) 長期的に見ると費用がかかっても別の場所がよい。

(委員長) 破碎不燃残渣中に可燃物があるということは、不燃物中に可燃物があるということか。

(事務局) 混合物がかなりある。粒度選別時に不燃残渣に可燃物が混ざってしまう。それをアルミ選別にかけることも検討しているが、現状の施設では難し

いと考えている。

(委員長) 見学した施設ではペットボトルをカチカチに固めていた。

(事務局) それスタンダードだが、当組合では排出されたままの形で事業者に引渡すため、体積が大きく運搬等において非効率である。近年、引取り事業者の応札数が減っている。

(委員) 安全性、効率性を考えると更新した方がよいが、それは土地（面積）に依存する。必要面積を考慮して土地の選定を進めるとよい。また、ごみ処理を通して市民に今まで以上のサービスを提供することをアピールすべき。

(委員長) 搬入車の転落事故の状況とはどのようなものか。

(事務局) 運転者がアクセルとブレーキを踏み間違え、車止めを乗り越えて車ごとピットに転落した。ダンピングボックスがあれば転落していなかった。

(委員) ペットボトルの処理を独自ルートから容リ協ルートに変えることも考えているのか。過去は圧縮梱包していたが、圧縮しなくても引き取る事業者がいたため圧縮しないこととした経過がある。

(事務局) 選択肢としてはある。独自ルートは管理責任が発生する。他自治体はほとんど容リ協ルート。また、直近のペットボトルの入札は1社のみで、入札価格はトン数万円からトン千円に下がっており、有価での売却はギリギリの状況である。容リ協ルートの場合、合理化拠出金でプラスになる。

(委員) 収集も問題になる。収集体系は変わるか。収集コストが上がるのではないか。考え方を整理いただきたい。

(4) 建設地選定

- 事務局より資料4に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 客観的に数値で評価したことは評価したい。一方で、机上での評価の危うさを感じる。例えば、災害時にも使用可能な搬入道路が確保されていないと、災害時に処理が滞る。次の選定の段階では、土壌、地盤などの事項にも注意して作業いただきたい。

(委員長) 選定した4箇所を委員が視察することになるのか。

(事務局) 次回委員会において視察を実施する。

(委員長) 評価点が1位の箇所はどこか。

(事務局) 現段階ではオープンにできない。

(5) その他

- 事務局より資料5に基づき説明した。主な意見等は以下のとおり。

(委員) 「高効率原燃料回収施設」が生ごみを対象としたメタン単独、「有機性廃棄物リサイクル処理施設」がコンポスト、「ごみ燃料化施設」がRDF及び炭化のことと理解してよいか。また、「、」が抜けているのではないか。

(事務局) そのとおり。

(委員長) 次回会議を非公開としてよいか。

(全員) 異議なし。

4 閉会